

都市再生整備計画の目標及び計画期間

都道府県名	ヤマガタケン 山形県	市町村名	カホクチョウ 河北町	地区名	サワバシチク 沢畑地区	面積	47.6 ha
計画期間	平成 19 年度 ~ 平成 23 年度	交付期間	平成 19 年度 ~ 平成 23 年度				

目標

- 紅花資料館を核に歴史的資源等を活用した魅力ある観光地の形成をきっかけとし、来訪者と地域住民の交流促進、地域住民が安心して快適に生活できる良好な居住環境の形成を目指し、今後の地域住民との協働のまちづくりの推進を目指します。
- 地域資源を活用した観光地としての魅力向上
 - ・ 2大拠点地区のひとつとして、歴史的街なみの保全や修景、伝統文化・自然資源の活用、情報発信による来訪者の増加を目指すとともに、地域の回遊や体験型観光などによる来訪者と住民の交流により、魅力ある観光地の形成を目指します。
 - 居住環境の向上
 - ・ 歴史的建造物、伝統文化・産業がより生活と密接し、安全で安心してかつ快適に生活できる環境整備により、住民も魅力に感じることができる地域づくりを目指します。
 - 住民との協働
 - ・ まちづくりへの意識を高め、住民と協働によって問題解決できるまちづくりを目指すとともに、持続的なまちづくりの実践を目指します。

目標設定の根拠

まちづくりの経緯及び現況

- 沢畑地区の概要
 - ・ 沢畑地区は、河北町北西部の丘陵縁辺部に位置する歴史的集落であり、旧家の萱葺き建造物や蔵などの歴史的建造物が多く残っている地区です。しかし、近年では、老朽化等によって伝統的な家屋が消失し、歴史的なまちなみが失われつつあります。
 - ・ 地区内には、「紅花資料館」「金谷庵」「月山神社」「弥富子地蔵堂」「四国八十八ヶ所」などの観光資源や史跡が分布し、沢畑風祭太鼓などの文化も相まって多くの観光客が訪れており、町の中心部と2大拠点を形成しています。一方で、観光客数は年々減少傾向にあり、ピーク時(平成7年)には年間6万6千人が訪れていましたが、平成17年度は年間2万5千人まで減少しています。
 - ・ 地区人口は年々減少傾向(20年間で2割の減少)にあり、高齢者割合は町平均を上回り、狭隘な道路などが多い一方、オープンスペースが少なく、都市防災という観点からの課題も多い地区です。
 - ・ 平成11年度より「街なみ環境整備事業」を実施しており、道路美装化、消防施設改築及び民地修景の実施など住環境整備を推進するとともに、歴史的建造物や史跡の保存と街なみの形成を進めています。
- まちづくりの機運
 - ・ 平成9年度に策定した「河北町都市計画マスタープラン」の住民意向として、本地区は「観光・レクリエーションで知られ、多くの人々が訪れるまち」との意見が多く、紅花資料館を核とした観光レクリエーションゾーン形成への期待が大きくなりました。
 - ・ 平成9年に「区長会街づくり研究会」、平成11年に「西部地区街づくり委員会」が組織され、同年に住民総意の下で進められた「街なみ環境整備事業」及び「河北町沢畑地区まちなみ景観形成基準」によりまちづくりが進められています。
 - ・ 時代や地区の変化に対応し、今後のまちづくりを検討する組織として、「沢畑地区まちづくり協議会」「同幹事会(庁内組織)」、「沢畑地区ワークショップ組織」が平成18年に立ち上げられ、自発提案型意見が多く出されています。
 - ・ 平成18年のアンケート調査結果(回収数:地区世帯の87%・180世帯)では、何らかのまちづくり活動に携わりをもととする機運が高まっています。

課題

- 観光拠点として中心市街地とともに、河北町の2大拠点を担っていますが、年々観光客数が減少し、地区人口の減少、高齢化など、地区の活力や賑わいが低下しています。このような状況の中、地区に多く残された資源を活かしながら、魅力あるまちづくりが求められ、特に、歴史・伝統・文化は、地域住民とともに伝承し、まちづくりの資源として活用していくことが必要です。
- 紅花文化がもたらした歴史あるまちづくり
 - ・ 歴史的な街なみ景観を保全する地区として、残存している紅花資料館や旧家を中心に趣きある建築物を中心に、地域の風景を形成している垣塀、農地や緑地、河川など豊かな自然、風祭太鼓や弥富子相撲など今も残る伝統行事や紅花染めや沢畑焼きなどの伝統工芸など、街なみの保全・活用とともに、伝統行事・工芸の伝承や活用が求められます。
 - 地区の魅力向上
 - ・ 住民が誇りに思える地区は観光客にも魅力的であり、来訪者が多いことは地区の魅力が高いことでもあります。地区の魅力向上を図るため、地区の特性としての伝統工芸や豊富な農産物などを活用し、景観に配慮しながら安全性、快適性が確保され、住民や来訪者が集うことができる地区の形成が求められます。
 - 住民と取り組むまちづくり
 - ・ まちづくりは人づくりでもあり、来訪者へのおもてなしの心を持ち続け、まちづくり協議会やワークショップなどを通じて住民と行政の協働により人材を育てていく必要があります。特に本事業をきっかけとし、今後の情報発信などソフト対応により、持続的な取り組みが期待されます。

将来ビジョン(中長期)

上位計画である「河北町創造・発展計画」、「河北町都市計画マスタープラン」では、町の理想とする将来像「雑とべに花の里—歴史と文化の薫るまち」を基本とし、「みどりと歴史が調和するまち」を地区のテーマに、「街なみ環境整備事業」の推進や「河北町美しいまちなみ景観条例」への適応を行うなど、地域の個性・歴史を活かしたまちづくりが進められています。

地区の将来ビジョンとして、紅花文化が沢畑地区にもたらした歴史・文化・自然は、貴重で有用な資源であり、これら残存する高いポテンシャルの資源を活用しながら、地域の歴史的資源や伝統文化・自然環境を将来まで継承するとともに、紅花資料館を拠点とした賑わいのある観光地として住民と来訪者など誰もが交流しながら紅花文化を感じるまちづくりを推進します。また、これら地域資源を継承する主役は住民であり、地域住民が安全に安心して住みやすい環境・住みたくなる環境が確保され、地域資源を伝承しやすいまちづくりを住民とともに推進し、住民と来訪者がともに楽しく過ごすことで輝ける地区の形成を目指します。

目標を定量化する指標

指 標	単 位	定 義	目標と指標及び目標値の関連性	従前値	目標値
				基準年度	目標年度
地域来訪者数	人/年	紅花資料館入場者数	観光地としての魅力向上に向けて来訪者数を指標とした。	24,700	30,000 H23
地域の資源	%	住民用アンケートによる資源の活用度	地区のアピールポイントである地域資源の活用状況を指標とし、住民の半分の満足度を目指す。	28.3	50 H23
住みよさ	%	住民用アンケートによる地区居住の住みよさ	地区課題に応じた整備により、住民の半分が満足することを目指す。	34.5	50 H23
まちづくりへの協力度	%	住民用アンケートによるまちづくりへの協力度	住民と行政の協働の目安として、協力度を指標とし、住民の半分が協力することを目指す。	37.2	50 H23